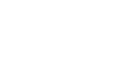




ぶかぶか漂う
第22回

スタートしたような しないような新生活



タイ入国後、二週間の隔離ホテルでの軟禁生活を経てマンションへ。本來なら実際に見て借りる部屋を決めたいですが、これ以上ホテル生活が続くことは避けたく、日本にいる間にオンライン内見をして契約してしまいました。便利な世の中ですね。マンションに移ってからは引っ越し荷物の受け取りのほか、銀行口座の開設など手続きが目まぐるしく。隔離ホテルの生活で落ちた体力とすつきりしない頭に鞭打って片付けていきます。さあ、子供たちが学校に行き始めれば新生活スタート！

が、しかし。学校は始まりませんでした。編入予定だった春休み明けから、すべての教育施設が政府の命令で使用禁止に。この春までパンコクの感染者数は一桁、二桁程度と非常に落ち着いていたのに、4月中旬から急増。パンコクだけで新規感染者が千人を超える日が出てきました。

6月下旬の今日現在も感染者数

が中心です。熱心にパソコンに向かう次男を見て、そんな授業でもうれしいものなんだなーと思っていたら。授業動画を見ているふりして、パソコンで漫画を読んでいましたよ。

二か月経った今はできるだけ娘にも口を出さないようにしていますが、授業中は私もよく同じテーブルでパソコン仕事をしています。授業音声が流れているので毎日が授業参観状態。自分が授業を受けているわけじゃないのに、なぜか疲れるんですよ。しかも緊張感がないから、だんだん眠くなってしまって。ソファにダイブしたい衝動を、次男の漫画を叱つた手前、ぐつと我慢しています。

一方で、私はささやかな楽しみも見つけました。娘の学校の英語の先生のファンになりました。たしかにイケメンですけど、そんな理由じゃないですよ、決して。教えてがうまく見て、楽しくて、温かい。テレビ番組表を見るかのように時間割をチェック

文・写真
小宮華寿子
二男一女の母で
編集者「『プラ』と
ジルの手しごと」
(メイツ出版)著者。世界の雑貨と
ワークショップの店「マルカジーニョ」
(<https://mercadinho.net>)代表。

イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー、「ゆ
らゆらゆれる北欧風手作りモビ
ール」(ネコ・パブリッシング)を監修。

は高止まりの状態で、オンライン授業が続いています。学校にはいまだ一日も登校できません。退学して日本に帰る家族もいます。我が家のは義務教育中の長女と次男は日本で通える学校がありますが、高校生の長男には戻る学校がありません。考えても仕方ないことは考えないことにしました。

毎日授業参観

インターネット環境の問題で、長女と次男はダイニングテーブルで授業を受けています。中1の長女はインターネットショナルスクールを選択したのですが、インターネットの中高部ではパソコンが使えることが前提。英語は分からず、パソコンも使えない状態の娘の方をサポートすることで最初の二三週間は過ぎました。

その間、小4の次男は放置。次男が選択した日本人学校のオンライン授業は双方向通信ではなく、動画配信

しています。

さらにはクラスマートにも親近感を覚え、はすから觀察。ずっとおでこばかり映っている子に「今日も近いね！」とくすりとしたり。いやいや、私が面白がっている場合ではありません。画面の中の子供たちの表情が次第に乏しくなってきたことが気がかりです。我が子たちもきっと同じでしょう。

限られた状況の中で、目標や息抜きを、大人であれば経験から見つけることができます。しかし実体験を今こそ重ねるべき年齢の子供たちはどうしたらしいのでしょうかね。もどかしい日々が続きます。